

さて、ここで実験コーナー。

もし〈4の山〉に変化を与えず、そのまま繰り返しを続けてみたらどうなるのだろうか？ わかりやすいように〈譜割のみ〉で示してみよう（譜例④）。

ふむふむ、悪くはない。

しかし、同じ音型を4回も連続で聴くと供給過多となり、さすがに飽きが訪れる。では〈飽き〉を感じさせないためには、どうしたらよいか？

答えは簡単、4回目（4の山）に変化をつければよいのだ。そうすることで〈飽き〉を回避できるはず……なのだが、いやいやちょっと待てよ。そもそも、この場所で変化をつけなかったら息つきができないではないか!?

〈歌モノ〉の長いフレーズにおいて、プレス・ポイントは必須（譜例⑤）。作曲する段階で、プレス（息つき）をする位置を事前に確保しておかなければ、歌い手は窒息してしまう。

なるほど「ラブ・ストーリーは突然に」における4回目（4の山）の変化は、生理的見地から考えても必然的なモノであったのだ。

極意

13

窒息防止の〈プレスポイント〉を
確保せよ！

隠されていた小田忍法

さて、ここまで分析してきて、何か違和感を覚えなかったであろうか？

なんとこの曲、サビ冒頭の4小節間にもものすごい事実が隠されているのである。私は本項の冒頭で〈掘り起こし作業の過程で意外なお宝に出くわすという僥倖がある〉と書いたが、まさに今回、その《意外なお宝》に出くわしてしまったのだ。

群馬県赤城山のおもとに眠ると言われる〈徳川埋蔵金〉のごとく、メロディ山脈の地中の奥深くに埋もれていたそのお宝とはいったい……。

ジャジャン、簡潔に言おう。

この曲……繰り返されている《メロディのフレーズ数》と《言葉（歌詞）のフレーズ数》が異なっているのである！

え……どうということ!?

きっと、99.9999%の読者の皆さまはピンと来ていないはず。

というコトなので、このお宝のすごさをしっかりとご説明せねば……。